

反復は一日六回、七日間

さて、もう十分お解りいただけたと思います。順調にいけば、一日ごとに「これ何と読む字？」と質問するカードが一枚ずつふえていきます。だから、第八日目には、「これなあに？」と訊ねるカードが七枚になります。この質問するカードは七枚までで、これから後は、新しいカードが一枚ずつふえていきますが、同時に一枚ずつ減らしていきますから、この八日目以降は「毎日七枚ずつ質問して、新しく一枚教える」という決まった形になります。

つまり、一日を覚えるための学習に使い、覚えたら、それに続く七日間を読むための学習に使う、というわけです。読めるようになった漢字を、毎日六回ずつ読み、それを一週間続けたら、その漢字は一応“卒業”というわけです。

一日六回、それを一週間することは、四十二回繰り返したということです。これだけ繰り返せば、その記憶はかなり継続します。うまくすれば一生のものになります。一生のものにならなくっても一年、二年、いや数か月の間にどこかで目に触れ、読む機会がきっとあるはずですよ。

そうすれば、それが記憶をさらに強めることになり、一年のものなら二年に、二年のものなら三年に、というように記憶が継続されます。

そういう漢字の記憶の累積が、三年間には一千字になります。小学校就学の三年前、三歳の時からこの学習を始めれば、一年生に入学するまでに一千字。この数字は、今の小学校で六年間に学習する漢字の数を上回ります。その一千字を身につけて小学校に入学すれば、小学生程度の本なら、どんどん読みこなして身につけることができます。

書物ほど人間の好奇心を満してくれるものはありません。その書物を読まれないのは、読む力、漢字力が弱いからです。親として、この漢字力をつけてやる仕事に励んでいただきたいと強く希望するものです。